

令和2年度 さいたま市立川通中学校 自己評価書

校長 安藤 幸子 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学習状況調査等により、生徒の学力・学習状況や課題を把握し、それを踏まえた適切な指導の推進—教育課程の編成・実施状況、各教科等の授業の状況
- (2) 「新しいたま市の授業づくり」を活用して授業改善・指導方法の工夫を行い、学ぶ喜びを実感できる学校を目指した、楽しくわかる授業の推進—各教科等の授業の状況
- (3) いじめゼロ・不登校生徒に寄り添った支援を目指した、積極的できめ細かな生徒指導、教育相談の推進—生徒指導の状況、いじめ防止等の状況、不登校生徒への支援の状況、教育相談の状況
- (4) 地域との連携を踏まえた、安全かつ安心して学び、生活できる学校を目指した、登下校を含めた安全教育の推進—安全管理の状況、安全教育の状況、学校と保護者、地域住民との連携の状況
- (5) 明るく生き生きとした教職員が、生徒と向き合える時間の確保に係る取組の推進—学校における働き方改革の状況

2 評価結果について

- (1) 昨年度のさいたま市学習状況調査においては、平均正答率は全て市の平均を超えることができなかった。また、無解答率も市の平均を超える設問が73%もあった。
- (2) 「よい授業」の4つの因子に基づく授業の実践を推進していることから、学校評価において、「授業がわかりやすい(わかる授業を進めている)」については、生徒(95.3%)・保護者(73.9%)であった。その一方、昨年度と同様に、「基礎学力が身につけている(伸びてる)」については、生徒(86.7%)・保護者(68.1%)という評価に差が依然として残ってしまった。
- (3) 生徒指導委員会・教育相談部会を中心に、SC・さわやか相談員・教育相談室・児童相談所・民生委員・区支援課・医療機関等と連携を図り、課題のある生徒に対し、組織的にきめ細かい対応を行ったことにより、いじめの認知件数はゼロであった。しかし、病気・家庭環境・友人関係等の理由により、15日以上欠席生徒は、昨年度とほぼ同じ数となってしまった。
- (4) 安全点検や避難訓練等のもとより、日常的な交通安全指導等によって、大きな事故等は発生していないが、登下校時のマナー等に対して、地域の方や保護者の方からの苦情や心配の声が数件寄せられた。
- (5) 学校業務改善に係る校内研修や、コロナ禍の影響もあり、在校時間を意識し、能率良く業務を遂行する教職員が増えてきた。また、部活動ガイドラインに基づいた指導も遵守されており、コロナ禍のストレスは多少あるものの、教職員も生徒も疲弊感は減少してきている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 市学習状況調査の結果を受け、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した活動を充実させると共に、「学びの足あと」を残す取組をさらに推進し、生徒が自分の考えを持ち、自信を持って表現できることで、無解答率のさらなる改善を図っていく。
- (2) 「よい授業」の4つの因子に基づく授業の実践及び、「さいたま市GIGAスクール構想」を踏まえた取組を一層推進すると共に、基礎学力の向上を目指した「川通中チャレンジカップ(KCC)」・「1P学習」のさらなる工夫や、家庭学習の定着を一層図る取組の工夫・改善等について、組織として推進していく。また、小学校との連携の強化も一層図っていく。
- (3) いじめ防止に向けた様々な取組を組織として継続していく。長欠・不登校に関しても、関係諸機関との連携を一層密にしていくと共に、本人や保護者に対してきめ細かな状況に応じた必要な情報の提供や助言等を行い、根気強く少しでも前進できるよう、組織として支援をしていく。
- (4) 安全・防災・危機管理に関する計画やマニュアルを見直ししながら、実情に合った避難訓練等をさらに推進していく。登下校の安全については、自転車安全利用5則等、自転車に乗る際のルールやマナーの徹底を継続的に指導していくと共に、1年次の自転車運転免許制度講習会や交通安全教室を実施していく。また、登下校指導等、PTAや地域との連携体制の強化を一層図っていく。
- (5) 生徒と向き合える時間の確保を念頭に置きながら、「ワーク・ライフ・バランスの充実を図る一人一つ以上の具体的な取組」をスローガンとして掲げ、組織一丸となってその取組を推進していく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。